

■これまでの取り組み(運営面)

日々の来場動向の分析・検証 お客様の声を聴き、速やかな改善につなげる



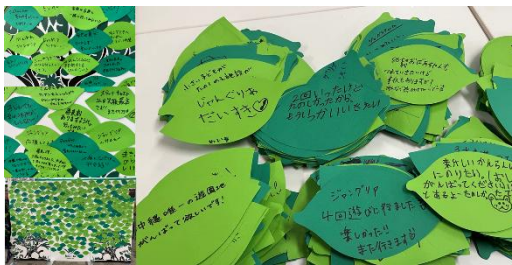
ジャングリア沖縄が目指すのは、ご来場いただいたお客様一人ひとりの快適なパーク体験です。その実現のため、私たちは日々寄せられるお客様の「声」と、実際のパーク内の状況を、何よりも重要な指標としています。お客様が「どの時間帯に」「どの場所で」混雑や待ち時間をストレスに感じているかを正確に把握するため、時間帯別の入場者数やアトラクションの待ち時間推移などを詳細に確認しています。

データ以上に私たちが大切にしているのは、ゲストの皆様から直接いただく声です。お褒めの言葉はもちろん、時には厳しいご指摘やご意見も、すべてをパークの成長の糧として真摯に受け止め、開業期から毎日集約し、反映しています。

客観的なデータとお客様の「生の声」を日々突き合わせることで、「今、何を改善すべきか」を判断し、アトラクションの運営方法やご案内の仕方を、早ければ翌日には見直す体制を整えています。

昨日より今日、今日より明日へ、少しでも快適にお過ごしいただけるよう、地道な改善のサイクルを丁寧に積み重ねてまいります。

5,000 枚を超えるメッセージに寄せて



緑豊かな葉っぱに綴られた、5,000 枚超の「本音」。

県内各地の出張イベントで寄せられた手書きのメッセージには、今の私たちへのご意見やご要望、叱咤激励と共に、「色々大変だと思うけれど、なんとか頑張る！」「沖縄のために絶対に成功させて！」という背中を強く押してください切る切実な応援の言葉が溢れていました。

この取り組みは一度きりのものではなく、私たちがこれからも未来へ向かって続けていく対話の「出発点」に過ぎません。今後もパークを飛び出し、皆様のもとへ直接足を運び続けます。寄せられた応援を確かな力に変え、厳しいお声は真摯な改善へと繋げていく。

この変わらない姿勢と、地道な変革の積み重ねそのものが、ジャングリア沖縄が突き進む真の「PROGRESS(進歩)」です。5,000 を超えるの「声」を原動力に、私たちは地域の皆様と共に、新しい明日へ歩み続けます。

2026 年 4 月 29 日新大型アトラクション「やんばるトルネード」誕生



最大高度約 20m に達する本アトラクションは、渓谷の起伏ある地形をそのまま高低差として活かした、やんばるの大自然に溶け込む設計が特徴です。回転しながら空へと駆け上がり、最高到達点では体が完全に逆さまになる、沖縄唯一の絶叫スリルと圧倒的な爽快感を味わえます。

一度に最大 48 名が同時乗車できる高い効率性を備えており、パーク全体でお迎えできる人数の拡大とゲストの分散を強力に牽引。他アトラクションの待ち時間軽減にも寄与し、繁忙期でもより多くのゲストへ快適で心地よいパーク体験をお届けする、運営進化の大きな転換点となります。

風が吹き上げる高台で、空へのバトンを繋ぐ。「気球体験」運航率アップのための挑戦



生命力あふれる濃緑の森から、高度を増すごとに現れるエメラルドグリーンの海。360°の大自然パノラマのなかを浮遊する「ホライゾン バルーン」は、ジャングリア沖縄が誇る贅沢体験の象徴です。しかし、開業当初は気候以外の不具合なども重なったことで運休が続き、「ほとんど飛ばないアトラクション」なのではないかという印象が定着してしまっていました。

実際に、パークが位置する嵐山は本部半島の中央部にある高台のため、海からの風が吹き抜けやすく、風が吹き上げる通り道という、気球の飛行としては非常に「攻めた場所」にあります。ですが、その環境のなかでも、最高の体験を届けようと職人たちはチャレンジを続けてきました。前日の詳細な天気予測から始まり、

パイロット、テクニカル担当、ゲストへのご案内担当といった様々な領域のメンバーが、日々フライトに向けた連携と、安全のための精緻な判断を続けています。

地道な運営方法の改善と飛行判断の精度検証を重ねた結果、現在ではこの厳しい環境下でも 4 割ほどの確率でフライトができるまでになりました。多くの方に空からの絶景をお届けできる日が増えているだけでなく、どうしても飛行ができない日にも、気球に間近まで近づいていただけるゴンドラツアーも開始しています。

データと経験の蓄積により、飛行予測の精度を今後さらに高めていきます。奇跡の絶景を、より多くの方に安心のクオリティでお届けするため、私たちの空への挑戦はこれからも止まりません。

■これまでの取り組み(地域連携)

「地元で働きたい」を叶える。1,300 名の仲間と沖縄で育む、誇りと未来



地で学びたいと、県外から沖縄に拠点を移してくれた仲間もいます。高いスキルを持つダンサーやパフォーマーなども、この新しい挑戦の場を選んで集まってくれました。多様なメンバーと共に、沖縄の地に根差し、地域の皆様の誇りとなるような事業へと成長させてまいります。

テーマパークでの最高の体験は、素晴らしい施設やアトラクションと、そこで働く「人」の力が合わさって生まれると、私たちは考えています。ジャングリア沖縄の開業にあたり、約 1,300 名のスタッフを従業員としてお迎えしました。その多くは沖縄県出身者、あるいは沖縄に移り住んで働くメンバーです。

沖縄の皆さんが持つ温かなホスピタリティや明るさは、パークで過ごすお客様の体験を、より豊かで心地よいものにしていきます。実際にご来場いただいたお客様への調査でも、この「スタッフのホスピタリティ」は大変高い評価をいただいております。

これまで沖縄北部では、大学卒業後に活躍の場を求めて県外へ移る若者も少なくありませんでした。地元に戻る「Uターン」や、地元で就職する「新卒」のメンバーも多く活躍しており、その受け皿にもなっています。さらに、エンターテインメントや事業運営の最前線をこの

地域の恵みを、新たな体験価値へ。レストランやグッズで地元産品と積極協業



本部町で「商品説明会」を開催し、次年度以降の商品開発において関心を寄せていただいた約 300 社 400 名以上の方にご参加いただき新商品の開発を開始するなど、開業後の連携活動も進んでいます。

ジャングリア沖縄のレストランやグッズ体験は、地元の豊かな「食」の魅力そのものです。県内の漁港から水揚げされる新鮮なマグロやセイイカ、沖縄の太陽を浴びたパイナップル、地元で愛される今帰仁すいかなど、近隣の素晴らしい食材をふんだんに使用しています。これは、沖縄への「旅」の醍醐味である「その土地の美味しさ」を存分に味わっていただきたいという思いと同時に、パークでの体験が地元の生産者の皆様への還元につながる、持続可能な関係を目指しているためです。

開業にあたり、沖縄県内事業者および県産品を取り扱う事業者、併せて 74 社の事業者の皆様と連携し、レストランメニューの約 7 割にこれらの県産食材を使用しています。地元の素晴らしい食材を「南国リゾート」ならではの、心躍る美味しい体験へと昇華させることに注力しています。

この取り組みをさらに拡大するため、2025 年 10 月には地元商工会議所とも連携し、

地元の誇りを、世界の舞台へ。広がる「おきなわ未来づくり基金」の支援



と、世界へ羽ばたく背中を激励しました。

地域と企業が一体となって課題に向き合い、子どもたちが広い世界へと挑戦できる環境を整えること。それこそが、私たちがこの地で共に歩む理由です。ジャングリアはこれからも、地域の皆様の誇りに寄り添い、共に新しい未来を切り拓いてまいります。

「おきなわ未来づくりプログラム」は、ジャングリア沖縄と県内外のパートナー企業約 20 社が手を取り合い、沖縄が抱える社会・観光課題の解決を共に目指す共創の枠組みです。このプログラムを通じて設立された「おきなわ未来づくり基金」は、単なる寄付にとどまらず、地域の未来を担う子どもたちの夢を具体的に後押しする活動を続けています。その象徴的な事例として、地元・今帰仁村で 30 年以上にわたり活動続ける創作エイサー団体「今帰仁子ども太鼓いまじん」のアメリカ遠征を支援いたしました。

「今帰仁子ども太鼓いまじん」の皆さんは、2026 年 7 月、アメリカで開催されたアメリカ建国 250 周年の祝賀パレードという大舞台で演舞を披露しました。20 名の派遣費用の一部として基金より 50 万円を贈呈した際、子どもたちは「行けなかった仲間の思いも背負って、世界にエイサーの素晴らしさを届けたい」と、力強く抱負を語ってくれました。ジャパンエンターテインメントからも「日々の練習の成果を出し切り、大成功させてほしい」

北部観光の“エンジン”が一つに。やんばる DMO と共に描く、持続可能な未来



に、地域と共創する高度観光人材の育成など、次世代の観光基盤づくりにも深くコミットしています。

2026 年 3 月 5 日、沖縄県北部 12 市町村をはじめ、観光協会や地元事業者、大学などが一体となり、地域全体の観光戦略を担う基幹組織「一般社団法人 沖縄やんばる DMO」が設立されました。ジャングリア沖縄を運営するジャパンエンターテインメントも、設立時より主要な民間パートナーとして、北部観光を「点」から「面」へと広げる強力な推進役を担っています。

本組織は、北部地域全体で持続可能な観光経営を実現するための「地域の司令塔」です。ジャングリア沖縄の誕生により国内外から注目が高まる中、増大する観光需要を確実に地域経済の循環へと繋げるため、データに基づく戦略策定や広域での周遊促進策を官民一体で進めています。

私たちの役割は、単なる一施設にとどまりません。パークに集まる膨大な観光データを地域に共有し、地域の所得や幸福度の向上に貢献する「エンジン」となることです。さら

上記「これまでの取り組み」を含む PROGRESS REPORT の全容は
以下 URL および二次元コードからご覧いただけます。

<https://x.gd/g9QM3>

